

令和5年度愛知県放課後児童支援員キャリアアップ研修
「発達障害児など配慮を必要とする子どもへの支援」レポート(テーマ1)

あそびばクラブ 島田歩実

今回の講義も自分にとって学びの収穫がたくさんあった時間となりました。「支援学級に在籍する児童の数は右肩上がりである」という現状を仰っていました。また、「こども基本法が令和5年4月から施行され、すべての子どもが基本的人権が保障され、差別的扱いを受けることのないように」ということもポイントとして仰っていました。

支援学級で、その子のペースややり方に合わせて学習したり様々なことを学んだりしながら頑張っていることをすごく感じます。支援学級でもそうではなくても、みんなそれぞれ自分の全力で今日も頑張ってきたんだなと感じています。難しいなと感じることは、「支援級だけ遠足に行っていないな」というような決して悪気はないのかもしれないけど、そのような発言をだいぶ減りましたが本当に時々きくことがあったり、支援学級で頑張っている子ども自身が「自分はみんなとは違う、だって支援だもん」と自信なさげに言っていることをきいたりした時です。差別的扱いなく、というようにあるのですが、どうしてもまだ傷ついてしまうような言葉がきこえてくるのが、どう感じているのだろうと考えると自分としてはドキドキするし、どう声を掛ければいいのか悩みます。直接的に感じてしまうものは減ったかもしれないけれど、「みんなとは違う」という目には見えない空気感みたいなものが少なからずあるような気がします。

また、今回ひとりの子の事例について悩んでいることがあり、そのことを考えながら聞かせて頂きました。それは「(支援級で頑張っている子の)声が大きくてうるさい」という声が多数からきこえてきた時。「この子はこういう特徴をもっているんだよ」で理解できているのかな…? 私から「もう少し小さな声にしようか」と声を掛けると、「それはできないよ。難しいよ」と返ってきたことがあります。そうか、難しいからこそ、「特に」配慮を必要としているんだよな、と思うと、どう対応するのが最善なんだろう…? 本人はどう言ってもらいたいのかな…? しんどくないかな…? ぐるぐる考えてしまいます。お互いのことを理解しながらお互いが気持ちよく生活できるようにするためには、側にいる私たち大人はどうしていくことがお互いにとって最善なのだろうと悩むため、この講義を受けさせて頂きました。

支援をする上で大切な視点のひとつとして、「人との信頼感を育む。無理強いせず、つうじる体験を多くもつこと」「面白い子だと関心をもつこと」ということを教えて頂きました。この「人との信頼感を育む」「無理強いをしない」ということがひとつ大切なキーワードのように感じました。今の段階ではきっと、周りの子たちは「いつも声が大きくてもう少し静かにしてほしい」という気持ちであり、本人は「難しいんだよということを知ってほしい」という気持ちで、私の力不足で何だかうまくそれらの気持ちが通じ合っていないような気がします。本人の気持ちを考えると、「静かにして」という言葉だけ言うことは違うような気

がして、あまりうまく言えなかった私に対して、周りの子は「なんで大きな声を出してるのに、注意しないの」というように訴えるような目で私を見ていたのがすごく印象的でどうすればよかったのだろうと悩んでいます。本人には、「もう少し小さな声にしてほしいんだって。もう少し小さな声にしようかね。あと3つボリューム下げようか、1、2、3」と声掛けをしてみて「あ？ちょっと小さくなったかなあ〜？」とあえてみんなに聞こえるように言ってみました。でもその対応は何だかその場しのぎのような感じもしてしまってモヤモヤしています。それは「配慮」となっているのか、なんであの子だけもっと注意しないの、という声が出てきてしまうと、それも「差別」につながってしまうのか…？すごく難しいです。

今私ができることとして、まずは、本人の頑張りたいけど難しいんだよという気持ちをまずは私や大人たちが知っているようにすること。そして、周りの子たちの気持ちも受け止めること(我慢はしなくていいよと伝えていくこと)なのかなと思います。本人が傷ついてしまわないように「このような特性をもっていて、頑張りたいけど難しいこともあるんだよってことを知っておいてもらえたら嬉しいな」と周りの子どもたちにも理解してもらえるように伝えていくことなのかなとも思います。でもそれを本人や保護者の方が望むのか？その部分も難しいし、何より伝え方もとっても難しく、よく言葉を選ばなければならないと感じます。本人も周りの子も、お互いを知り理解し合いながら気持ちよく生活ができるように援助をしていくことが目標なので、どうしていくべきなのか改めて考えていきたいです。

今回グループワークの中で、「個別支援計画書」を皆さんと作成しました。

この計画書を作成するにあたり、「あそび面」「心理・社会面」「健康面」という項目に分け、特に配慮を必要としている子どもについて、「気になるところ」「それに対する対応」だけではなく、「いいところ」を箇条書きで書き出してみるところがなるほどと思いました。障がいの有無関係なくどの子にも、特に配慮が必要な部分もある反面、いいな素敵だなと思う部分も必ずあるよと改めて感じました。「特に気になる部分」ばかりに目がいてしまうのではなく、その子のもつ良さや素敵な部分を周りにいる大人がうまく引き出しながら、認めながら周りの子たちにもまずは知っていつてもらえたらいいなと感じました。そうすることで、周りの子たちの「その子に対する見え方」も変わってくるのかもしれないと思いました。

加えて、「この時点での支援方針」「これからの支援」「いつからいつまで」と細かく考えていけたことで、見通しをたてながら支援計画を考えていくことができ、すごく勉強になりました。この計画書は、特に配慮を必要とする子はもちろん、子どもたちひとりひとりに対して見通しをもち、その都度指導員同士で相談し合いながら作成していったらいいなと思いました。お互いの気持ちや、お互いの特性を知り合い、理解し合いながら、お互いが気持ちよく生活ができるように、自分は何ができるのかをこれからも精いっぱい考え実行していきます。